

2008年8月8日

—岩手宮城大震災支援—

お茶わんプロジェクトⅢ

ご協力いただいた皆様へ

〒655-0043 神戸市垂水区南多聞台 3-6-6-105

特定非営利活動法人ひまわりの夢企画

代表 荒井 勳 (いさお)

TEL/FAX 078-787-7387

完了の報告と御礼

全国から食器を集め被災者に届ける「お茶わんプロジェクトⅢ」は、別紙報告書の通り、全国から450箱の食器類が集まり、栗原市内3か所4日間の配布で無事に終了することが出来ました。プロジェクトに関わり、協力して頂いた皆さまに、主催者として厚く御礼申し上げます。

企画の発信者(ひまわりオジサン)として少しだけ、感想を書かせて頂きます。

震災がおきたのは、6月14日の事でした。神戸で、テレビのニュースを見ながら「遠いいなあ～」と思いました。画面からは住民の悲痛な声が、読み取れました。数日経つと、行政側から「もう救援物資は要らない。義援金だけ欲しい」といった情報が流れてきました。

また馬鹿な事を云っている。そんな事を云ったら、物どころか義援金も集まらなくなる。正直そう思いました。中越地震支援の後半位から、震災が起きると、そんな発表があるようになってしまいました。支援も、効率と受ける側の都合の究極の結論は、お金なのでしょうか？そのお金は何処に行くのでしょうか？

そんなニュースを耳にすると、私は、居ても立っても居られなくなります。軽四バンに神戸の香り高きコーヒーを積み、7月3日夕方には、「ボランティアの募集はしていません」という栗原市社協の築館支所の玄関に立ちました。

「神戸から1050キロ走って来ました」の言葉に職員さんが感動してくれて、翌日から避難所でのコーヒー出前とお茶わんの集積基地探しが始まりました。

少ない情報を元に、高校・中学校と回りますがどちらもNOの返事。打ちひしがれている時に出会ったのが「くりこま高原自然学校」の佐々木さんでした。この出会いから全ての事が順調に運び、3回通い、別紙の報告書となりました。

全国に呼びかけたら、温かい心を持った人はたくさんいます。

支援とは、人と人との支え合う事だと再認識しました。